

英語落語の可能性

竹田里香

落語は演劇やドラマと同じ表現活動ではありながら、大きく違います。演劇やドラマは仲間と作り上げていくものであるのに対し、落語は一人で何役も演じなくてはならず、しかも大がかりな舞台装置も大道具もなく、ただ扇子とてぬぐいだけで、座ったままで演技を行います。目的はただ観客と世界を共有し、笑わせるためにです。人は“笑われる”ことにとても繊細です。でも、こと落語に関しては、もっと観客に笑って欲しいと演者は創意工夫を凝らします。そこに自発的動機とオリジナリティーが作用し第2言語習得を有用にすると考えています。

今回の発表では、どのように子ども達に英語落語を導入するかを見て頂き、実際に小唄に挑戦するワークショップ型の発表を体験して頂き、その後、子ども達の実演もしくは、最近の寄席のDVDを参加者の皆さんと見たいと思います。